

J A秋田なまはげ生産者大会

「美味しい米」コンクール表彰式

2月1日(金)、秋田ビューホテルでJ A秋田なまはげ生産者大会が開催され、農業所得の増大に向けて農産物の安定生産の拡大を進める旨の大会スローガンを会場の拍手によって採択しました。

平成30年度「美味しい米」コンクールの結果発表と表彰式も行われ、審査の結果、「あきたこまち」の部の最優秀賞に中野生産組合の堀井喜一さん(秋田市四ツ小屋)、「ひとめぼれ」の部の同賞に鎌田文夫さん(秋田市太平)が輝きました。最優秀賞を受賞した米は、直売所「あぐりんなかいち」「いぶきの里」で限定販売しています。

J Aは次年度の農産物販売目標として83億2266万円を掲げ、「あきたこまち」「ひとめぼれ」に加えて醸造向け加工用米として需要が高い「ぎんさん」や業務用主食米に適した「萌えみのり」などの作付け拡大を推進しています。加えて、「あきたこまち」「ひとめぼれ」「めんこいな」の3品種に一定の栽培基準を設定した「こだわり米」のさらなる普及によって高付加価値で良質な米の

生産と販売を促進し、園芸品目には従来の委託販売方式から買い取り販売方式や予約相対方式を一部に導入して、販売力の強化や農家所得の向上につなげていきます。

J A全農耕種総合対策部GAP推進課の門永章宏課長は「GAPへの取り組みと生産振興について」と題して講演し、農産物のブランド力強化に向けたGAPの活用と実践内容を述べました。



「あきたこまち」の部最優秀賞の中野生産組合堀井喜一さん(左)と「ひとめぼれ」の部最優秀賞の鎌田文夫さん

NEWS & TOPICS

脇本第一小学校収穫祭

1月30日(水)、男鹿市立脇本第一小学校で収穫祭が開かれました。学習田の授業に協力した地元農家が学校に招き、児童が収穫した「あきたこまち」を使ってだまこ鍋を振る舞いました。

収穫祭に参加した5年生は、農業体験を通して学んだことや稲作にまつわる事柄を劇やクイズ、かるたにまとめて班ごとに発表しました。招待された地元農家やJ A秋田なまはげ男鹿地区営農センターの職員には、児童が手作りのメダルや感謝状が贈られました。田主の小山田定昭さんは「5年生の皆さんは4月から最上級生になるので、農業の経験を生かしてがんばってほしい」と呼び掛けました。



だまこ鍋を味わう児童と小山田さん

潟上市・男鹿市へ要請書を提出

2月4日(月)、吉田文勝副組合長らJ A役員が潟上市役所と男鹿市役所を訪問し、平成30年における災害支援と地域農業振興に関する要請書を提出しました。今年度の減収に伴う管内農家からの要望に対応するために資金利子助成を要請したほか、地域農業の発展に向けてさらなる協力を求めました。

吉田副組合長が、管内の農業情勢やJ Aの取り組みを報告して「行政と協力して、地域農業の活性化につなげたい」と呼び掛けました。藤原一成潟上市長と菅原広二男鹿市長に要請書を手渡し、両市長は地域農業の発展に向けた支援を約束しました。



藤原市長(左)へ要請書を手渡す吉田副組合長